

令和6年度 学校評価			
本年度の 重点目標	・コミュニケーション手段を適切に選択・活用し、円滑に人と関わる力の育成を図る。 ・各部が連携し一貫した教育を実践し、社会で生かせる力や自ら行動する力を育てる。 ・積極的に情報発信をし、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを推進したり、快適で温かみのある学校環境整備を図ったりする。 ・時代に合わせて学校現場における業務の在り方をリニューアルし、学校全体の多忙化解消を図るなど、働きやすい環境づくりを推進する。		
担当（項目）	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
幼稚部	・遊びや体験を通して、幼児の発達に応じた生活習慣、生活言語の習得を図る。 ・わかりやすく、安全に楽しく活動できる環境を整え、幼児が自分で考え、選び、決める機会を多く設けるなど、発達に必要な経験を積み重ねられるようにする。	・幼児の言動や発信を受け止め、それに関連する絵本や道具、遊びを提供することで、体験と言葉を結び付けつけられるようにする ・幼児の実態に合わせた課題と支援方法を明確にし、様々な活動を通して自信をもって行動できるように支援する。	・「お店屋さんごっこ」など役割のある遊びや、「運動会ごっこ」など友達と目的を共有して遊ぶ活動を行う際に、年齢や幼児の発達段階に応じた活動を行った。 ・「運動会ごっこ」では、5歳児をリーダーにして、意識して年下の友達と関わる機会を設定した。順番を決めるときに積極的に年下の友達に話しかける姿が見られた。 ・「お店屋さんごっこ」では、お店選びや道具・看板作りなど活動の準備段階から、幼児がやりたいことを聞いたり、役割を選ばせたりすることで、主体的に活動に参加し、役になりきって楽しむことができた。
小学部	・「深い学び」に焦点を当てた実践を行う。 ・実態に応じたコミュニケーションスキルの育成を図る。 ・主体的に行動できるような学習場面の設定を行う。 ・積極的に情報を発信し、保護者や地域に信頼される学校を目指す。	・単元計画を「見える化」するマネジメントシート等を活用し、複数の知識や知識と経験をつなげて考える指導を心掛ける。 ・自立活動の6区分27項目から児童の実態を捉え、聴覚障害やその他の障害特性に応じたスキルの獲得を目指す。 ・学習場面における自己選択や自己決定を大切にし、児童の主体性を伸ばす指導を心掛ける。 ・ブログやお知らせを活用して情報を発信し、保護者との対話を通して理解を得ながら実践を進める。	・総合的な学習の時間を小学部の研究テーマとして取り組んだ。児童の学習の流れを明確にし、個々の経験や思いから興味関心に応じて探求する学習を行うことができた。 ・耳鼻科医や作業療法士を講師として招いた研修を実施し、児童の障害の状態をよりの確に捉えることができるようになってきた。 ・様々な学習場面での児童との関わりにおいて、児童の行動や発言を待つこと、思いを引き出すための環境設定を心掛けることで、児童の主体的な行動が多く見られるようになった。 ・ブログの発信や送迎時の保護者とのやりとりに努めることができた。
中学部	・学習評価の見直しやカリキュラム・マネジメント等を通し、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげる。 ・生徒が自己選択・自己決定して主体的に活動する学習場面を設定する。 ・異学年や実社会の人々と接する機会をもつように学習場面を設定する。	・授業の組立やヤマ場の設定及び評価の工夫につなげるようにマネジメントシート等の活用を通して授業改善を図り、より良い授業実践につなげる。 ・話し合い活動や協働活動を意図的に設定することで生徒の深い学びの実践を図る。 ・主体的に行動し、学習した内容を実生活に生かす力を育む。 ・異年齢の多くの人と関わる機会を適切なコミュニケーション手段を考える一助としてコミュニケーション力の向上につなげる。	・マネジメントシートを活用して単元内容を生徒に示し、生徒が見通しをもち、主体的に活動する場を設定した。シートを活用しながら授業改善をし、授業実践につなげることができた。生徒の実態への対応が課題であるため、個別最適な学びを目指していく。 ・学習の課題や学習発表会及び修学旅行・野外活動などで、自己選択・自己決定する場面及び事柄を多く取り入れた。自分の意見を伝えることが多くなった。 ・総合的な学習の時間や学級活動などで学年・部を超えて活動すること、校外学習などで学校以外の方と接することを通して、場に適したコミュニケーションを考えることができた。
高等部	・卒業後の自分をイメージし、これからの自分にとって必要になる力は何か、それを習得するためにどのような手立てが必要なのかを自身で見付けられるようにする。 ・地域の人に関心をもち、自ら人に関わっていく主体性を身に付ける。コミュニケーション力を伸ばし、会話することの楽しさを感じられるようにする。	・実習記録や青春メッセージの評価表等を振り返って、自身の気付きにつなげる。 ・文章の表現力や指先の巧緻性を伸ばすために、意識して課題に取り組む時間を設定するように促す。 ・地域への働き掛けの意図を発信し、協力を得る。	・「総合的な探求の時間」で進路について扱い、興味のある職業探しを行った。そこで働くために、これからの自分に必要な力は何なのかを確認した。書店で働くために、棚卸ができる「体力」、発注するための「計算力」など、六つの力を細かく分析する生徒が見られた。 ・実習で褒めていただけた実習記録を他の生徒の目に触れるようにしたことで、振り返ったときに分かりやすいメモの例として再確認できた。 ・地域の方々との交流の場として、カフェを展開した。地域の方に席の案内や注文をとったり、メニューの説明をしたりするなど、多くの方との会話がなされ、人と関わることに自信をもてた生徒が増えた。

いじめ防止等	・一人一人の存在感や自尊感情が満足できるように、良いところや頑張っているところを即時評価する。 また、互いの良いところを認め合えるような機会を作る。 ・日頃から子供たちの様子を確認して、小さなサインも見逃さないようにする。気になる様子があれば、すぐに学校全体として対応する。	・賞賛や感謝の気持ちの伝え方などを、関わる教職員でそろえるようにする。 ・SC等の専門職に相談するなど、学校組織として対応できるようにする。	・子供たちの様子を確認し、日常との違いがあれば言葉をかけて早期発見に努めることができた。 ・子供たちの悩みに対して、心理的な安定を図りながら個別の相談や丁寧に事実確認に心掛けることができた。 ・担任や管理職、SC等がチームとなって、子供の相談にのることができた。学校と家庭との連携だけでなく、状況によっては、医療機関や福祉機関も含めた連携を図りながら、子供の支援を実践することができた。
勤務時間の適切な管理及び長時間労働による健康障害防止	・校務分掌の業務を複数の職員で担当できるようにして、フォロー体制などの校内協力体制を推進する。 ・会議の内容を精選し、短時間で行えるように効率化を図る。また、ICT機器を活用して、個の状況に合わせた情報共有ができるように進める。	・気軽に相談しやすい雰囲気づくりを推進し、円滑な人間関係の構築を図る。 ・論点の明確化や柔軟な情報共有ができるように、ICT機器の活用を推進する。	・複数で業務に取り組めるように体制を構築したことで、協力しながら業務を遂行することが増えている。 ・会議の開催では、同じ連絡や議題が重ならないように調整をしたことで、回数減や時間短縮することができた。 ・ICT機器を活用することで、教職員間の連絡や情報共有が円滑になってきた。 ・昨年度よりも、月45時間以上の勤務時間外在校時間総数が減っている。

○学校関係者評価等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進める。 ○家庭や地域との連携を図り、ともに子供たちの支援に取り組む。 ○働きやすい環境づくりなど、働き方改革を推進する。
自己評価結果について	○子供たちが主体的に活動できるよう、環境づくりや授業展開の工夫を行うことができた。 ○コミュニケーション力の向上を目指して、教師や友達との関わりをもつことができた。 ○地域との関わりをもちながら、教育の充実を図ることができた。 ○協力体制で学校業務に取り組むことができた。より職員間の連携を図ることにつながった。
今後の改善方策について	○主体的・対話的で深い学びをさらに推進し、基礎学力の向上・定着を図っていく。 ○コミュニケーション能力の獲得や活用を促し、卒業後の生活の充実につなげていく。 ○引き続き地域や家庭との連携を図り、子供たちの成長を促していく。 ○互いに認め合え、協力し合える働きやすい環境づくりをさらに推進していく。
その他 (学校関係者評価委員から 出された主な意見、要望)	○授業に関して ・人に教えることは難しいことである。一方的に教えるより、手本を提示したり、丁寧に説明をしたりすることの方が効果的と思われる。 ・聴覚障害に配慮した授業づくりをさらに推進していったほしい。 ・職員は大変ではあるが、子供たちの理解度や習得度、特性に合わせた授業の工夫が大切になってくる。 ○人との関わりに関して ・多感な時期の子供たちは、何かに迷いを感じている。子供や保護者に対して、丁寧に関わっていくことが大切と感じる。 ・相手の興味のあることで関わりをもつように準備することで、円滑なコミュニケーションにつながる。また、初めに緊張を緩めることで、持てる力を発揮しやすくなると思われる。 ○地域との連携について ・地域の人にとって、子供たちと関わる機会は楽しみになっている。できる限りの協力をしていきたいと考えている。 ○卒業後に関して ・卒業後の生活に向けて、身に付けておいた方がよい必要なスキルを考えることが大切と感じる。 ・保護者として、卒業後に向けて何をすべきか悩むこともある。学校と家庭で連携を図りながら、考えていく必要性を感じる。 ○その他 ・アンケートについては、回答率を上げていくことが大切である。 ・子供たちの様子に気付いて、早期に対応できるような校内体制の構築が大切である。 ・勤務時間の適切な管理を図りながら、働き方改革を推進していくことが大切である。
学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期	・構成：学校評議員5名 ・評価時期：令和7年2月18日に実施

令和6年度 学校教育に関する 保護者 アンケート 結果

幼 9 小 16 中 9 高 11 全 45 (未回収……幼:2 小:0 中:6 高:4)

回収率 79%

A とてもそう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない D そう思わない E 判断できない、わからない

No.	質 問		美 数					割 合					
			A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	
①	お子様の学校での様子は楽しそうですか。	幼	7	2				78%	22%				A 78% B 22%
		小	7	7	1		1	44%	44%	6%		6%	A 44% B 44% C 6% E 6%
		中	2	6	1			22%	67%	11%			A 22% B 67% C 11%
		高	4	6	1			36%	55%	9%			A 36% B 55% C 9%
		全	20	21	3		1	44%	47%	7%		2%	A 44% B 47% C 7% E 2%
②	お子様は、友達と仲良く学校生活を送っていますか。	幼	8	1				89%	11%				A 89% B 11%
		小	5	8	1		2	31%	50%	6%		13%	A 31% B 50% C 6% E 13%
		中	3	5	1			33%	56%	11%			A 33% B 56% C 11%
		高	4	6			1	36%	55%			9%	A 36% B 55% E 9%
		全	20	20	2		3	44%	44%	4%		7%	A 44% B 44% C 4% E 7%
③	学校の教育方針や教育活動は、お子様の実態に合っていますか。	幼	3	5			1	33%	56%			11%	A 33% B 56% E 11%
		小	9	5	1		1	56%	31%	6%		6%	A 56% B 31% C 6% E 6%
		中	1	7			1	11%	78%			11%	A 11% B 78% E 11%
		高	1	10				11%	91%				A 11% B 91%
		全	14	27	1		3	31%	60%	2%		7%	A 31% B 60% C 2% E 7%
④	学校は、お子様の学力の定着・向上のために、工夫した授業を行っていますか。	幼	7	2				78%	22%				A 78% B 22%
		小	9	5	2			56%	31%	13%			A 56% B 31% C 13%
		中		9					100%				B 100%
		高	2	7	1		1	18%	64%	9%		9%	A 18% B 64% C 9% E 9%
		全	18	23	3		1	40%	51%	7%		2%	A 40% B 51% C 7% E 2%
⑤	学校は、お子様のコミュニケーション力を高める支援をしていますか。	幼	7	2				78%	22%				A 78% B 22%
		小	8	7			1	50%	44%		6%		A 50% B 44% D 6%
		中	1	8				11%	89%				A 11% B 89%
		高	2	8	1			18%	73%	9%			A 18% B 73% C 9%
		全	18	25	1		1	40%	56%	2%	2%		A 40% B 56% C 2% D 2%
⑥	学校は、自分と友達の命を大切にすることや思いやりの心を育む指導に努めていますか。	幼	4	3	1		1	44%	33%	11%		11%	A 44% B 33% C 11% E 11%
		小	5	8			1	31%	50%		6%	13%	A 31% B 50% D 6% E 13%
		中	1	8				11%	89%				A 11% B 89%
		高	3	8				27%	73%				A 27% B 73%
		全	13	27	1		1	29%	60%	2%	2%	7%	A 29% B 60% C 2% D 2% E 7%
⑦	学校は、お子様の体力向上や健康の促進に取り組んでいますか。	幼	5	2	1		1	56%	22%	11%	11%		A 56% B 22% C 11% D 11%
		小	9	5			2	56%	31%			13%	A 56% B 31% E 13%
		中	1	8				11%	89%				A 11% B 89%
		高	3	8				27%	73%				A 27% B 73%
		全	18	23	1		1	40%	51%	2%	2%	4%	A 40% B 51% C 2% D 2% E 4%
⑧	学校は、事故防止や災害に対する知識や対処法などの安全教育・安全管理に努めていますか。	幼	3	3	1		2	33%	33%	11%		22%	A 33% B 33% C 11% E 22%
		小	6	8			2	38%	50%			13%	A 38% B 50% E 13%
		中	1	8				11%	89%				A 11% B 89%
		高	4	7				36%	64%				A 36% B 64%
		全	14	26	1		4	31%	58%	2%		9%	A 31% B 58% C 2% E 9%
⑨	学校は、学校や子供たちの様子を適切に情報発信をしていますか。	幼	5	4				56%	44%				A 56% B 44%
		小	5	9			1	31%	56%		6%	6%	A 31% B 56% D 6% E 6%
		中	1	7	1			11%	78%	6%			A 11% B 78% C 6%
		高	3	7	1			27%	64%	9%			A 27% B 64% C 9% D 2%
		全	14	27	2		1	31%	60%	4%	2%	2%	A 31% B 60% C 4% D 2% E 2%
⑩	学校は、お子様に関する悩みや相談を気軽にできる雰囲気はありますか。	幼	5	3	1			56%	33%	11%			A 56% B 33% C 11%
		小	10	4	1		1	63%	25%	6%		6%	A 63% B 25% C 6% E 6%
		中	3	5			1	33%	56%			11%	A 33% B 56% E 11%
		高	3	7	1			27%	64%	9%			A 27% B 64% C 9%
		全	21	19	3		2	47%	42%	7%		4%	A 47% B 42% C 7% E 4%

【分析コメント】

幼稚園部	幼児の特性を十分に理解した上で、事故の発生防止に係る行動の確認や事故に発展する可能性のある問題点を把握し、事故の発生防止に取り組んでいく。また、合同活動や給食後の自由遊び等において、幼児が自由に体を動かせる時間を増やす等、日常的な運動時間が確保できるようにし、幼児の体力向上を図っていく。
小学部	学校生活が負担になっている児童のケアについて、部全体で共有し、スクールカウンセラーの助言も聞きながら、言葉にできない気持ちを受け止めていける学校にしていきたい。学習や生活の状況を、ブログや懇談等でお伝えし、連絡帳等で保護者の方の思いをしっかりと聞きながら子供たちの支援を進めるよう努めていきたい。
中学部	学習面においてICTの活用や学習方法の工夫をして学習内容の定着を図っていく。思春期の多感な時期であることを念頭に、生徒に寄り添い、相談しやすい雰囲気を作ったり、一人ひとりの生徒の状況や専門家の方の助言を部の職員で共有したりして支援をしていきたい。学校生活の様子をブログや懇談等で丁寧に伝えていきたい。
高等部	学力面においては、高等学校の教科書にある内容を理解するための基礎学力が身に付くように、今後は内容を精選するなどの工夫が必要になってくると感じている。小学部、中学部での学習内容を自立活動や生活単元学習で継続的に補っていきたい。ブログをより有効に使って、保護者に生徒が生き生きと活動に取り組む様子を伝えていきたい。